高校日语专业基础课系列教材

丛书主编：胡振平

新编日语阅读

第二册

魏丽华　编著

南開大學出版社

图书在版编目(CIP)数据

新编日语阅读.第2册/魏丽华编.—天津:南开大学出版社,2004.12

ISBN 7-310-02118-5

Ⅰ.新… Ⅱ.魏… Ⅲ.日语—阅读教学—高等学校—教材 Ⅳ.H369.4

中国版本图书馆CIP数据核字(2004)第045433号

版权所有 侵权必究

南开大学出版社出版发行

出版人:肖占鹏

地址:天津市南开区卫津路94号 邮政编码:300071

营销部电话:(022)23508339 23500755

营销部传真:(022)23508542 邮购部电话:(022)23502200

*

河北省迁安市鑫丰印刷有限公司印刷

全国各地新华书店经销

*

2004年12月第1版 2004年12月第1次印刷

787×1092毫米 16开本 18.5印张 462千字

定价:30.00元

如遇图书印装质量问题,请与本社营销部联系调换,电话:(022)23507125

总 序

随着时代的发展，要求学生不仅在语言方面要有扎实的基本功，还要有较强的日语实践能力，具备一定的文化知识。为了适应新时代的这一要求，加强对学生素质的培养，我们解放军外国语学院经过多年的教学积累，推出了《高等院校日语专业系列教材》。本套教材编写的依据是《高等院校日语专业教学大纲》，在注意传授基础知识，加强听、说、读、写、译几方面技能的同时，还注意培养学生的日语综合能力，扩大视野、拓宽知识面。

本套教材主要有以下几个特点：

第一、教材体系完整　本套教材涵盖了除精读教材（《现代日本语》已由上海外语教育出版社出版，共六册由胡振平教授主编）以外高等院校的常设课程教材，其中包括《新编日语阅读》、《新编日语听力》、《新编日语会话》、《新编日语翻译》、《现代日语——口语法》、《现代日语——文语法》和《日本文学选读》等共15册。按照具体的课程设置要求，教材分别与相应年级的教学内容配套，由浅至深、循序渐进，便于学生逐步吸收教材的内容并完成教材提出的训练要求。

第二、内容侧重点强　本套教材是严格按照教学大纲的要求来编写的，因此每套教材的内容都与相应课程紧密结合，注意从不同侧面培养学生的语言应用能力以及有关的日本语言、文化、文学等方面的知识。

第三、便于教学使用　本套教材对于主干课程教材还配备了教师用书，便于教师在备课时参考和学生自学时使用。

由于教材编写工作量大，质量要求高，因此难免有不足之处，希望日语界同仁不吝赐教，同时也欢迎读者批评、指正。

另外，在这里谨向对这套教材的出版给予大力支持的南开大学出版社表示深深的谢意。

主 编

2004年

前 言

本册为日语阅读第二册，适合日语专业大学三年级使用。

本书共 36 课。课文设置较第一册有所变化。首先，针对三年级学生语言能力的实际情况，本册所选文章长度与难度均高于以前。课后单词表的设置与第一册相同，但解说部分侧重于对文章中出现的难点、知识点等的背景介绍，而淡化了对句型与语法的解说。本册所选文章长度在 4000 字～6000 字以内；题材有评论文、随笔、小说等。为了使教材生动有趣，更为了提高学生的阅读兴趣，帮助学生的理解，书中依旧作了一些插图。正文开始前的热身句为文章理解的关键句。课后的解说加入了名作家的介绍。课后的问题均为主观题。希望以此培养学生的语言表达能力与归纳能力。阅读理解题也以主观题为主。

本书现仅为试用本。使用过程中若发现错误与欠缺，请速与编者联系。在此，对各位老师与同学的指导与帮助表示深深的谢意。

编 者

2004 年 1 月

目　录

第 1 課　大相撲おもしろ話 ……（1）
第 2 課　「愛」のかたち ……（7）
第 3 課　美を求める心 ……（12）
第 4 課　愛の消印 ……（16）
第 5 課　落ちる男、飛ぶ女 ……（22）
第 6 課　外国人との付き合い方 ……（28）
第 7 課　楽しみは過程にある ……（33）
第 8 課　漢字の性格 ……（38）
第 9 課　毎日の科学 ……（45）
第 10 課　遺伝子組換え穀物
　　——科学技術の光と陰 ……（52）
第 11 課　茶碗の湯 ……（61）
第 12 課　友情の杯 ……（67）
第 13 課　天然の禁色 ……（74）
第 14 課　あの頃の気持ち ……（82）
第 15 課　旅について ……（90）
第 16 課　松下幸之助物語 ……（97）
第 17 課　人間の時間について ……（105）
第 18 課　ネットショッピング ……（112）
第 19 課　家族の呼び方について ……（120）
第 20 課　「余暇」のすすめ ……（126）
第 21 課　話体と文体 ……（135）
第 22 課　毛丹青が見た「２１世紀日本語の風景」 ……（141）
第 23 課　モナ＝リザには眉がない ……（149）
第 24 課　日本語の特質 ……（157）
第 25 課　羅生門 ……（168）
第 26 課　座・間・家 ……（177）
第 27 課　『二十歳のころ』
　　——曽野綾子にきく ……（184）
第 28 課　猫（ねこ）の事務所 ……（192）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第29課　日本文化の雑種性 ……（201）
第30課　異性の間の友情 ……（209）
第31課　道具と文化……（218）
第32課　私の個人主義……（227）
第33課　９・１１と「黙示録」
　　――田川建三さんに聞く……（238）
第34課　本との出会い ……（249）
第35課　今日と明日の芸術 ……（259）
第36課　知的亡国論 ……（270）

第１課　大相撲おもしろ話

普通、お相撲さんの結婚相手はどんな女性でしょうか。

S/X7H2/08

力士と結婚

貴花田と宮沢りえの婚約は、どちらも相撲と芸能の世界の人気者同士とあってゴールデンカップルの誕生と騒がれた。

しかし、破局もあっというまに訪れて、今更ながら、何が原因だったのだろうかと騒がれている。

古いしきたりにこだわる相撲、派手な芸能の世界は、人気商売という点では同じように見えるが、所詮は水と油。まだまだ商品価値のある“油”が“水”に溶け込めなかったところに、最大の障害があったのではなかろうか。

お相撲さんの結婚相手は、戦前と戦後では、がらりと様変わりしている。戦前は力士のおかみさんといえば、花柳界出の人が、相撲関係がほとんどであった。

なんといっても相撲は男の世界。人気商売の力士の家庭は、単に貞淑な妻だけでは務まらなかったからである。

大正から昭和にかけての横綱の例を見ても、二九代の宮城山、三一代の常ノ花、三二代の玉錦と、いずれも、水商売と関係のある人ばかりである。

こうした風潮に逆らい、断固として自分の意思を貫き、素人の娘さんを伴侶にしたのは、六九連勝を達成した双葉山だった。双葉山は師匠に当たる立浪親方の娘さんとの結婚話もあったが、関西の素封家のお嬢さんを選び、当時の新聞にも「正体見たり」、「花婿双葉」に続いて「大阪の女性と婚約、式は五月」と大々的に報道されている。

双葉山は昭和十四年の四月二九日に飯田橋の大神宮で結婚式を挙げたが、世間が驚いたのは何よりも、相手が素人の娘さんだったことだった。

その後、初代羽黒山、安芸ノ海が師匠の娘と一緒になり、東富士、吉葉山は恋愛結婚と流

れ変わっているが、千代山のように、婚約不履行で訴訟沙汰になったケースもあった。

ところが、戦後の混乱時代を過ぎて、力士にも月給が支給され、生活も安定して地位の向上をみるにつけ、短大、大学出は珍しくなくなってきている。

現在の協会理事長の佐田の山の出羽海夫人は白百合短大出、ナンバー２・事業部長の時津風（元大関豊山）夫人は明大文学部出、立浪（元二代目羽黒山）夫人は共立女子大出と高い学歴になっている。

そればかりか、時代の先端をゆくスチュワーデスのハートを射止めたのは元琴風の尾車（スイス航空）、元隆の里の鳴戸（日航）、バレリーナを奥さんにした元高鉄山の大鳴戸など、選択範囲はキャリアウーマンにまで広がっている。

結婚式もそれにつれて派手になり、昭和四二年五月、記録男、大鵬のときは招待客も一〇〇〇人を超え、帝国ホテルで行われたパーティーの総費用も三〇〇〇万に及ぶ豪華版だった。

これが五三年九月に行われた最年少横綱の北の湖の場合は、帝国ホテルでの費用も一億円の大台に乗り、招待客も一五〇〇人、「孔雀の間」には収容出来ずに控えの間まで使う始末だった。

「小さな大横綱」といわれた千代の富士（現九重）のときは、さらにエスカレートして二億円挙式と話題になったが、後に暴力団が列席していたことが分かり、師匠の九重（現陣幕）にペナルティーが科されたのは気の毒であった。

芸能界がらみでは歌手の高田みずえと結ばれた若嶋津も六〇年九月、ホテル・ニューオータニで一億円結婚式。ちゃっかりしていたのは、外国人大関の小錦、テレビに中継を独占させて、費用も安くあげたと評判になった。

それに引き換え、元二子山（初代若乃花）の結婚は、場所も花寵部屋、出席者は身内だけの十数人、新居も六畳二間だった。

裸の親善大使

最近は大相撲の国際化がいろいろと話題になっているが、国際交流の歴史は明治時代から始まっている。

明治四〇年八月に十九代横綱の常陸山が門弟の近江富士、和歌ノ浦、平田山の三人を引き連れて、アメリカの各地で日本独特の格闘競技を紹介、ホワイトハウスでは、セオドア・ルーズベルト大統領に謁見、帰りには欧州からシベリア鉄道経由で四一三月に帰国、「裸の親善大使」としての先鞭をつけている。

戦後は昭和二六年六月に前田山の高砂が八方山、大ノ海、藤田山を連れてアメリカを訪問。翌二七年には高砂一門の東富士、朝潮の一行がまだ返還前の沖縄に巡業、三七年五月～六月にはハワイ巡業も実現して、大相撲も海外に目を向けるようになった。

しかし、いずれも巡業の域を出なかったが、四〇年七月～八月にはソ連文化省の招待で、出羽海理事を団長とする四横綱、三大関以下四六人がバイカル号でナホトカに上陸。モスクワ、ハバロフスクで興行、大きな反響を呼んだ。

モスクワではボリショイ・サーカスが行われる会場だったが、元女優の岡田嘉子さん、ミコヤンソ連最高会議議長も観戦して話題になった。とりわけナホトカの大地に眠る抑留中の死者を弔うため、一行が揃って墓参、日本から取り寄せた墓標を建てた。またハバロフスクでは墓標を前に四横綱の土俵入りで冥福を祈った。

大相撲がさらに大きな親善の役割を果たしたのは、四八年に日中国交正常化を記念しての

中国公演だった。公演とは相手国から正式招待があったときに使うそうだが、北京、上海場所には総勢一〇九名が参加した。北京場所には時の周恩来首相も観戦。解放軍音楽隊のマーチに乗って力士が入場して連日満員の盛況だった。

その後、大相撲の海外公演は五六年のメキシコ、六〇年のニューヨーク、六一のパリ、平成元年のサンパウロ、同三年のロンドン、同四年のマドリード、デュッセルドルフと相次いで行われ、日本の伝統文化の評判は上々であった。

花の都、パリでは裸のスポーツが、果たして理解されるかどうか、関係者の心配のタネになっていた。

ところが、芸術の国フランスだけあって、演出も見事なもの、力士の土俵入りには、謡曲の鼓のような効果音、それを合図に照明がつく凝ったものだった。

日本では江戸時代の遺物といわれていた「ちょんまげ」もパリジェンヌには大もてであった。中でも好評だったのは千代の富士のお別れのあいさつ、「たいへんお世話になりました。さようなら」というフランス語は、流暢とはいえなかったが、“東洋の神秘”相撲への関心を一挙に高めるものとなった。

ブラジルのサンパウロでは、日系人の大歓迎を受けた。開拓のため異郷の地で亡くなった「日本人開拓移住者戦没者慰霊碑」前での横綱土俵入りには、涙する邦人が多かったとのことである。

海外公演は回を重ねるごとに、外国人にも大相撲の面白味が理解されるようになったが、ロンドンではテレビでも放映されて、大変は人気となって、公演のチケットもたちまち売り切れとなった。

相撲観戦を通じて力士には、すぐにニックネームがつけられ、巨漢の小錦は「ダンプカー」、北勝海は「ブルドッグ」、旭富士は「シーライオン」、動きの速い寺尾は「タイフーン」、思い切って塩を撒く水戸泉は「ソルト・シェーカー」と外国人らしい相撲の楽しみ方をしている。

しかし、海外の興行が増えるにつれて、力士もオーバーワークになりがちで、本場所がおろそかになるという弊害も出始めている。

（湖南人民出版社 羅明輝 主編「日語美文精読」による）

単語

ゴールデンカップル	【名】黄金搭档
破局（はきょく）	【名】悲惨的结局
所詮（しょせん）	【副】归根到底
花柳界（かりゅうかい）	【名】花柳界
人気商売（にんきしょうばい）	【名】靠人缘的职业
貞淑（ていしゅく）	【形动】贞淑
水商売（みずしょうばい）	【名】接待客人的营业
伴侶（はんりょ）	【名】伴侣
師匠（ししょう）	【名】（尊称）师傅
親方（おやかた）	【名】（相扑）教练，顾问
素封家（そほうか）	【名】大财主

正体（しょうたい）	【名】真面目
履行（りこう）	【名・自サ】履行
訴訟沙汰（そしょうさた）	【名】诉讼通知
ハートを射止める（ハートをいとめる）	【连】俘获……的心
バレリーナ	【名】芭蕾舞女演员
キャリアウーマン	【名】女职员
大台（おおだい）	【名】大关
孔雀（くじゃく）	【名】孔雀
控えの間（ひかえのま）	【名】备用间
エスカレート	【名・自他サ】逐步升级
挙式（きょしき）	【名】举行结婚仪式
ペナルティー	【名】罚款
がらみ	【接尾】包括……在内
ちゃっかり	【副】机警，机灵
謁見（えっけん）	【名・自サ】谒见
先鞭をつける（せんべんをつける）	【连】抢先
巡業（じゅんぎょう）	【名・自サ】巡回演出
興行（こうぎょう）	【名・他サ】公演，上映
弔う（とむらう）	【他五】吊唁
冥福を祈る（めいふくをいのる）	【连】祈死者冥福
マーチ	【名】进行曲
上々（じょうじょう）	【名】最好
遺物（いぶつ）	【名】遗物
ちょんまげ（ちょん髷）	【名】明治前男子梳的发髻
パリジェンヌ	【名】巴黎女性
大もて（おおもて）	【名】（俗）大受欢迎
戦没者（せんぼつしゃ）	【名】战亡者
ニックネーム	【名】绰号
ダンプカー	【名】翻斗车
ブルドッグ	【名】虎头狗
シーライオン	【名】C 狮子
タイフーン	【名】台风
ソルト	【名】盐
シェーカー	【名】鸡尾酒摇混器
オーバーワーク	【名】工作过度

解説

1、相撲

日本の伝統的な格闘技で、1909 年に国技 BUT4 に制定されました。古代には農耕儀礼や神事として行われていたため、現在も儀式的な要素を多く含んでいます。相撲の試合では、ま

わしのみを身に付けた２人の力士が土俵に上がり、一方が土俵から出るか、足の裏以外の体の一部が地面につくまで戦います。日本相撲協会が大相撲の興業を年６回行っており、その模様はテレビやラジオでも中継されます。1960 年代からは大相撲の海外巡業もしばしば行われており、『スモウ・ワールド』という英文相撲雑誌も世界各国で愛読されるなど、大相撲人気は国際的なものとなっています。また、近年は外国人力士の活躍も目立っています。

２、横綱

力士の地位の最高位です。横綱の力士が化粧まわしの上に締める縄も「横綱」といいますが、これはしめ縄が変化したものです。大関で２場所連続優勝か、それに準ずる成績を挙げた者だけが横綱になれます。200 年余りの歴史を持つ大相撲ですが、横綱に昇進したのはたった 64 人（1993 年８月現在）と、非常に狭き門です。1993 年には米国人の曙が第 64 代横綱に昇進し、初の外国人横綱が誕生しました。

３、土俵入り

身の清らかさを示したり、土俵の神に正々堂々と戦うことを誓ったりする意味で、大相撲では十両以上の力士は取り組み前に土俵入りという儀式を行います。十両・幕内力士は番付順に土俵に上がり、円陣を作って行いますが、横綱は太刀持ちと露払いを従えて登場し、１人ずつ行います。特に横綱の土俵入りでは各横綱の個性が表れ、それぞれに豪華で迫力あるパフォーマンスが見られます。

４、相撲部屋

大相撲では、各部屋の力士同士が戦って勝負を競います。そのため力士は必ず相撲部屋に所属し、師匠である親方のもとで毎日稽古します。師匠と弟子の強固な関係をタテ軸に成立しているのが相撲部屋で、昔の封建社会の人的結合形態と似たところがあります。番付の位が下の者は、上の者の付き人となって世話をしたり、ちゃんこ鍋を作ったりします。親方夫人である部屋のおかみさんは、対外交渉をしたり母親代わりになって力士の面倒を見たりと、大きな役割を果たしています。なお、相撲部屋に所属するのは力士だけではありません。行司や呼び出し、床山のほか、巡業での進行や力仕事をする人々などがいる部屋もあります。

５、ちょんまげ

江戸時代の男子の髪形の一。前額を広く剃(そ)りあげ、残った髪をまとめ後頭部にまげをつくったもの。まげの形が踊り字の「ゝ」に似ることからいう。現在では、関取の風俗として残る。

学習の手引き

１、「しかし、破局もあっというまにに訪れて、今更ながら、何が原因だったのだろうかと騒がれている。」とあるが、「今更ながら」はどういう意味ですか。

２、作者は「相撲と芸能」を「水と油」にたとえているが、「まだまだ商品価値のある“油”が“水”に溶け込めなかったところに、最大の障害があったのではなかろうか。」という文の意味を自分の言葉で説明してください。

３、お相撲さんの結婚相手は、戦前と戦後では、どのようにかわりましたのか。例を出しながら説明してください。

４、「吉葉山は恋愛結婚と流れ変わっている」とあるが、ここの「流れ」の意味はなんで

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

すか。
5、どうして、花の都「パリ」では、「裸のスポーツが、果たして理解されるかどうか、関係者の心配のタネになっていた」のですか。

文章読解

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私は冬というと、今でもすぐ、幼時毎朝のように見たバケツや甕の中の、氷片の浮かんだ青黒い水を思い出す。あそこには本当の冬があったと思う。今でも、郷里に帰ると、幼い頃と同じように、バケツに氷も張れば、甕にも氷が張る。そして幼い頃と同じように、氷片を浮かべた水を見ることができる。しかし、幼い頃感じた厳しいものを、そこから受け取ることはできない。幼い者がバケツや甕の中に覗いていたものは、冬の心であったのである。あるいは冬の貌といった方がいいかも知れない。大人になると、もう冬の心も、冬の貌も見えなくなる。見る感受性を失ってしまうのである。

夏もまた同じだ。私は夏に関するあざやかな(　　)を持っている。村の大人たちがみんなそれぞれの家で午睡をとっている午下りの時刻である。村全体は強烈な真昼の陽に照らされ、家も、田圃も、木々も、暑さにうだって死んだようになっている。風さえも、この時刻には死んでいる。

生きているのは、そうした村の外れの崖っぷちの道を、谷川の小さい淵をめざして駆けている子供たちばかりである。子供たちは一列になって駆けている。真上から陽光は照りつけ、小石の露出している崖っぷちの道は焼けている。そうした道を子供たちはみんな裸足で駆けている。一刻も早く谷川の淵の岸に立って、インキ壷のような淵の中に飛び込もうと、それだけの思いで、子供たちは必死に駆けている。崖っぷちの道には赤い鬼百合の花が咲いており、蜻蛉が群れをなして飛び回っている。蝉の声と、流れの音が、絶えず子供たちの隊列を押し包んでいる。

こうした一枚の絵には、大きく“夏”の落款が捺されている。私はこの一枚の絵を思い出す度に、あそこには夏があったと思う。本当の、紛れもない夏があったと思うのである。大人になると、残念ながらこのような夏を経験することはできなくなってしまう。

問題

(　　)にあてはまる最も適当なことばを本文中から抜き出して書きなさい。

答え：

第２課　「愛」のかたち

「愛」のかたちはいろいろあるが、それによって、愛する人と愛される人の考えも同じではない。

私の親の世代は、戦争の最中か戦後すぐに結婚したような人たちだが、彼らに共通の言い方として「生活が忙しくてそれどころじゃなかった」というのがある。一家が全員無事に生きていくのが大変で、着飾ったり遊んだり、余計なことを考えたりするヒマはなかったのである。だが結婚をして家庭を築いている。さびしいからではなくて、それが普通で自然のことだったからである。「愛し合っていた？」とたずねると「それどころじゃなかった。」という答えが返ってくる。笑っている時も真顔のときもある。

私が子供のころの我が家も、常に生活に追われていたが、日本全体が貧しかった時代である。どこの「我が家」もいわゆる固いきずなで結ばれて、ヒシと寄り添いあっていた。

たぶん高度経済成長期あたりをさかいに、そのきずながすこしずつゆるんできたのではないだろうか。かちんかちんにつながっているものが、ほどけて、ばらばらになってくると、そこに隙間ができる。宇宙と同じで、人の暮らしもきずなも、膨張し続けてきたのだ。膨張すれば、人と人との間隔は開く一方である。人々はその隙間を、最初は壁でふさいだ。一人ずつが密室のような個室に住むようになり、そして隙間がありさえすれば、モノで埋めようとした。

壁もなくモノも少なかった時代は、家族や恋人が固いきずなで結ばれて深く愛し合っていたからこそ、あれほど多くの恋愛小説や恋愛映画が作られたのだろうか。しかし、そこにどんな愛情があったかということになると、先に言った「それどころじゃなかった。」という言葉が重要な意味を持ってくる。人が一人で過ごせるような場所や時間はなかった。自分の心の傷つきやすさなどにかまっている余裕はなかった。

今は違う。一人の部屋でゆっくりと愛を夢想し、それぞれが自分の好みで、求める愛を創作する。そのモデルは、マンガやテレビから多くきている。そして自分で決めた愛にぴったりの相手が現れるのを待っている。

去年あたり、私のようなものにも、恋愛小説を書いてみませんか、という誘いがずいぶんかかった。私は「愛」というものの殆ど登場してこない小説ばかり書いている、とずっと言われ続けてきたような人間だから、ちょっとした異変だった。雑誌では恋愛特集が、テレビでは純愛ドラマが目白押しといった状態だった。

私が若かったころ、つまり今から二十年ほど前にも、若い女性の切実な夢として、「燃えるような恋をしたい。」という一項を抜くわけにはいかなかった。恋愛に憧れるのは、今の時代に始まったことではなくて、何時の世にも変らぬ思いであるようだ。

最近、「アダルタリー」という小説で、次のような文章にであった。「彼女が昔からなりた

いと望んでいたのは、誰かが結婚したくなるような素敵な女性、ただそれだけだった。」読みながらなんだかひどく懐かしい気分になった。

私にももちろん人並みに恋をしたいと願っていた時期があった。愛し愛される状態が、人間の一つの到達点であるように思っていたものだ。その一方で、仕事で成功したいという強い思いもあった。私の場合、二つの思いは重さが同じ程度だったのだろう。やじろべえのようにうまくバランスがとれてしまって、どちらかに傾くということがなく、いつまでもゆらゆらとゆれ続けて、なんだか人生の目的がはっきり決まらないようないらだちに包まれたりした。

たまたま恋より先に小説家という職業に出会ったので、恋の登場しない小説ばかり書くはめになったわけだが、順番が逆だったら、つまり先に恋をして、その後に小説を書くようになったとしたら、恋愛小説作家になっていた可能性もある。考えてみると私は、恋のない小説を書いたのではなくて、なぜ恋ができないのかという疑問と不満を小説の形で書き続けてきたのかもしれないのである。

二十年前と比べると、人と人との関係は確かに変化した。若者は若者であるというだけの理由で、いろいろと窮屈なことが多い。若いのに恋一つできないというだけでも、若者はだめだということにされてしまう。ただ、年寄りは年寄りというだけの理由で若者にそっぽを向かれるし、子供も大人も男も女も、ただそうであるというだけの理由で、ほかの者と区別され、暗黙の絶縁状態を余儀なくされているのが実情ではないだろうか。

五、六年前から「シングル」という言葉がよく使われるようになった。人とのつきあいを面倒がって独り暮らしをしたがる人が増えた、ということである。人とのつきあいということの中には、結婚や家族も含まれる。一時、よく使われていた「自立」という言葉とはどうやらかなりニュアンスが違う。

個人的には、行動と思考の基準が「自分」になるシングル化は賛成だ。だが経験から言うと、独りでいる時間が長くなりすぎると、妄想と錯覚が肥大しやすいので要注意。

自分の心はひどく傷つきやすい。だから人に近づくことも恋愛することもできない。そう自覚している若者が増えているという。

彼らは親しい仲間としかつきあえない。理想の異性として、優しくて面白くて包容力と経済力のある人といった、総合ビタミン剤のような効能を要求する。自分のことを大事にするあまり、人のことまで気が回らない。自分が優しくて面白くて包容力と経済力のある人間になる努力をしている、という話は残念ながら聞いたことがない。

恋愛できない若者は増えているかもしれないが、恋愛をする老人は増えているそうである。独居の老人が増えているという。自由と孤独の中で暮らしていれば、愛や恋を求めたくなるのは、自然のなりゆきというものだろう。

たとえば、いつの日付きでもいいから、新聞のテレビ欄を眺めてみるといい。まず目につくのが愛の文字であり、その次に乱発の印象が強いのが殺人。愛と殺人が、現代社会のキーワードというわけであろう。

ともかく、愛は言葉の上では氾濫している。では実情はどうか。いまが昔に比べて少なくなっているわけではない。違うのは、愛という言葉や情報が、昔は今のような氾濫状態ではなかったという点である。

心配すべきなのは、「私の心は傷つきやすい。」ということではなく、「あなたの愛を感じ取る私の能力は鈍いのではないか。」ということではないだろうか。

愛は言葉と同じだ。自分で意味や使い方を決めすぎると、すぐに手垢がついて、輝きも失われる。既成のものを求めるのは恋愛ではなく、恋愛ごっこである。一度、思い切って洗濯してみてはどうだろうか。安っぽく乱発して意味が限定されるようになる以前の、原初のもやもやとした形の愛に戻るまで。

愛を求める人が増えているからといって、昔より愛が少ないというわけではない。それどころか、人口が増え、寿命が延びているのだから、むしろ世の中の愛の総量は、増える一方だと考えたいものである。

もし一人当たりの取り分、あるいは人間が持ちうる愛の総量が、決まっているとしたら、愛は薄まる一方だということになるわけだけれど。考え方次第である。

もし愛がほしいのなら、愛のことばかり夢想する生活は早々にきり上げて、相手のことを思うべきだ。自分のことだけを愛したいのなら別だが、誰かを愛し、愛されたいのなら、自分がいちばん素敵な人間になれる方法を考えることに頭を使うことだ。

（大修館書店出版「高等学校現代文」による）

単語

着飾る（きかざる）	【他五】盛装，打扮
真顔（まがお）	【名】严肃的面孔
ヒシト	【副】紧紧地
かちんかちん	【副】物体坚硬貌
解ける（ほどける）	【自下一】解开
膨張（ぼうちょう）	【名・自サ】膨胀
塞ぐ（ふさぐ）	【他五】塞，堵
純愛ドラマ（じゅんあいドラマ）	【名】纯情片
目白押し（めじろおし）	【名】拥挤，一个挨着一个
やじろべえ	【名】两臂平伸姿势的偶人玩具
羽目（はめ）	【名】境地
そっぽをむく	【连】头扭向一边，置若罔闻
妄想（もうそう）	【名】妄想
錯覚（さっかく）	【名】错觉
肥大（ひだい）	【形动】肥大
包容力（ほうようりょく）	【名】包容力
総合ビタミン剤（そうごうビタミン剤）	【名】复合维生素片
独居（どっきょ）	【名・自サ】独居
乱発（らんぱつ）	【名・他サ】乱发
手垢（てあか）	【名】手垢
恋愛ごっこ（れんあいごっこ）	【名】恋爱游戏
気が回る（きがまわる）	【连】胡乱猜疑，多心
原初（げんしょ）	【名】最初

もやもや　　【副】朦朧，模糊
切り上げる（きりあげる）　　【他下一】结束，告一段落

解説

1、高度経済成長期：日本の経済成長率が急激に伸びた、昭和三十（一九五五）～四八（一九七三）年の時期をいう。

2、「アダルタリー」：アメリカの小説家アンドレ・レビュース（一九三六～）が、一九七七年に発表した小説。

学習の手引き

1、「ヒシト」など擬声擬態語を本文中から抜き出して、意味をおぼえてください。

2、次の文に用いられている表現技法（修辞法）と、その表現上の効果を考えてみてください。

①妄想と錯覚が肥大しやすいので要注意。

②総合ビタミン剤のような効能を要求する。

③一度、思い切って洗濯してみてはどうだろうか。

④人々はその隙間を、最初は壁でふさいだ。

3、「それどころじゃなかった」とはどういう意味ですか（一段落）。「『それどころじゃなかった』という言葉が重用な意味を持ってくる」とあるが（四段落）、「重要な意味」とはどんな意味ですか。

4、「なんだかひどく懐かしい気分になった」（八段落）とあるが、筆者はどうして「懐かしい気分になった」のですか。

5、筆者は人間と愛との関係をどのように考えているのですか。自分の言葉でまとめてください。

6、本文から幾つかの「『愛』のかたち」を読み取ることができますが、そのどれかについて、自由に感想を述べ合ってください。

文章読解

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本人は昔から、どんな小さな自然の変化をも心に受けとめ、山や野の広い風景ばかりでなく、一木一草の姿にまで愛情をこめて見守ってきたのである。雨や風や雲やたなびく霞は、自然の景観に一層の情趣を添え、生動させるものとして観賞された。いや、観賞するというような、対象としての自然ではなく、自然の呼吸と自己の呼吸を一つに合わせ、自然を生きてきたのである。自然に託して自己の思いを語ることは、万葉以来の文学作品はいうまでもなく、野を渡る風、草葉の上に置く露にさえ、微妙な心の明暗をあらわし得たのである。また、美術史上の作品の場合も、ただ一本の草花によって、また霞の中の数本の松樹によって、自然の生命を豊かに深くあらわし得た。

自然観入のこまやかさと共に、日本的な美の一つの特質は、優れた装飾性にあると思う。

装飾的な美は洋の東西を問わず優れたものがたくさんあるが、日本の場合は、写実と装飾化の関係に特殊性がある。写実と装飾化ということは、元来、反対の要素であるのに、日本の美術では、それが渾然と融合している。日本的な美の一つの典型を完成した平安朝の美術は、自然観照のこまやかさと、優美典雅な(　　)な美しさをもって、しかも、対象の生命感を失わない特質を持つものであるが、この美的感覚は形を変えながらも今日に続いている。

問題

(　　)にあてはまる最も適当なことばを本文中から抜き出して書きなさい。

答え：

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com